

(様式1-2)

野生イノシシのジビエ利用に伴う豚熱及びアフリカ豚熱ウイルスの遺伝子検査を実施する
施設概要報告書

1 施設の概要

施設名	●●処理加工施設
住所	〒●●●●—●●●● ●●市●● ●●番地の●
面積(m ²) 用地	●●●m ²
建屋	●●●m ²

施設管理運営者名	●● ●●	
連絡先	(緊急時)	電話 ●●●—●●●●—●●●●
		メール ●●●@●●●.●●●
	(通常時)	電話 ●●●—●●●●—●●●●
		メール ●●●@●●●.●●●

施設所有者名		
連絡先	(緊急時)	電話 ()
		メール
	(通常時)	電話 ()
		メール

※施設管理運営者と同じ場合は記載不要

従業員数	施設従事者	● 人
	捕獲従事者	● 人

利用獣種	年間取扱頭数	備考
イノシシ	●●頭	
その他(●●●)	●●頭	

【添付資料】

- ①施設位置図(縮尺:5万分の1)
- ②施設平面図
- ③従業員名簿
- ④捕獲者名簿

(任意様式)

2 野生イノシシの利用計画

捕獲市町	●●市			
月別搬入頭数 (計画)	4月	●頭	10月	●頭
	5月	●頭	11月	●頭
	6月	●頭	12月	●頭
	7月	●頭	1月	●頭
	8月	●頭	2月	●頭
	9月	●頭	3月	●頭
	取扱商品	ジビエバーガー		
主な販売先	●●食堂			

3 ジビエ利用実施体制

(1) 捕獲から施設搬入まで

監理責任者	役職	●●部長
	氏名	●● ●●

捕獲方法	わなによる捕獲
------	---------

作業内容と防疫措置	
現地到着・準備	手袋、長靴、防護服等の着用
わな設置 餌付け・見回り	わな設置・撤去の際、逆性石鹼で消毒
検体採取	使用した器具等を消毒用アルコールで消毒
捕獲個体の 処理・消毒	捕獲・死亡個体を自治体の指定する処理方法に従い、処理
運搬	積み込み時、車両にビニールシートを敷く
駐車場到着 ・移動	運搬に使用したソリや現場に持ち出した猟具や器具の消毒
帰宅後の対応	防護服や手袋、採取時に出たゴミ等を二重にゴミ袋に入れ、消毒し処分

【添付資料】

- ① 捕獲体制体系図（任意様式）
- ② 捕獲にかかる防疫措置等チェックシート（様式2）

(2) 施設搬入から出荷まで

監理責任者	役職	●●課長
	氏名	●● ●●

一時保管の方式(A、B、C)	A方式(またはB・C方式)
----------------	---------------

作業内容と防疫措置	
施設搬入	所定の場所でブルーシート等の資機材を洗浄・消毒する。
受入判断	1頭ごとに異常の有無を確認し、捕獲時の状況も踏まえ総合的に判断する
個体管理	個体ごとに管理番号をつけ、捕獲及び運搬時の記録と紐付けする
個体洗浄	泥等による体表の汚染が著しい個体は、処理加工施設への搬入前に飲用適の流水を用いて十分に洗浄する。
放血	放血された血液による生体及び他の個体の汚染を防ぐ
剥皮	個体に直接接触するナイフ等は、1頭を処理するごとに摂氏83度以上の温湯を使用し洗浄・消毒する。
内臓摘出	手指が消化管の内容物等により汚染された場合、その都度洗浄・消毒する
一時保管	一時保管庫への出入り時には、手指・長靴を消毒する

【添付資料】

- ① 施設管理体制体系図（任意様式）
- ② 施設搬入から一時保管までの豚熱ウイルス拡散防止対策チェックシート（様式3）

4 豚熱及びアフリカ豚熱ウイルスの検査の実施について

検査方法	県が認定した外部検査機関において血液PCR検査を行う
検査機関	株式会社●●●●
住所	●●県●●市●●町●丁目●—●
連絡先	●●●—●●●—●●●●

検体採取方法	
検体保管	処理加工施設内の一次処理室において剥皮・内臓摘出した後の個体を施設内外の保冷库に搬入し、判定結果が出るまで一時保管する。
検体送付頻度	●ヶ月に●体
検査結果の取扱	豚熱及びアフリカ豚熱ウイルスの浸潤状況調査の結果報告時に農林水産省に報告する。

5 陽性個体が確認された場合の対応内容

在庫の廃棄処分等について	
廃棄処理方法	●●市と連携し、●●●クリーンセンターにて焼却する
廃棄処分先	●●●クリーンセンター
施設消毒方法	既に消毒済であっても、改めて設備、備品等の消毒を行う。

在庫処分完了の報告	
報告先	電話: ●●●—●●●●—●●●●

6 その他特記事項

検査検体の利用は県に一任する（検査結果（捕獲情報を含む）、検査検体から得られた遺伝子・遺伝子増幅産物、病原体等）。